**復活のイエスと出会う場所はどこですか－復活節第３主日Ａ年**

新型コロナウイルスの感染拡大阻止のため、緊急事態宣言、外出自粛要請が出され、4月13日（月）～5月6日（木）まで、公開ミサを中止しています。主任司祭は、この期間、非公開ミサをささげますので、信徒の皆様は家で司祭と心を合わせてお祈りください。

ヨハネ・ボスコ　林　大樹

**ルカによる福音24章13－35節**

**今日の福音（ギリシア語原文）の構成図**

|  |  |
| --- | --- |
| イ13節　彼らはエルサレムから　エマオへ歩きながらㇿ14節　互いに語り合ったㇵ15節　イエス自身が近づき彼らと一緒に歩いたニ16節　彼らの目はさえぎられて、彼を認めることができなかったㇹ17－18節　イエスと弟子との応答ㇸ19節　ナザレのイエスについてㇳ19節　彼は預言者チ20節　祭司長たちが死刑するため引き渡し十字架につけたㇼ21節ａ　我々はイスラエルを解放するのは彼だと望みをかけていたㇴ22節　仲間の婦人たちが　墓へ行ったㇽ23節ａ　イエスの体が見当たらないので帰りヲ23節ｂ　天使たちの姿を見た**ワ**23節ｃ　イエスは生きておられる! | ㋑33節　彼らは┅┅エルサレム　に戻ると㋺32節　互いに言った㋩31節ｂ　イエスは彼らから見えなくなった㋥31節ａ　彼らの目が開かれて彼を認めた㋭28－30節　イエスと弟子との応答㋬27節　イエス自身について㋣27節　モーセと預言者たちから始めて㋠26節　キリストはこういう苦しみを受けて栄光に入るはず㋷25節　預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち㋦24節ａ　仲間の者が何人か墓へ行った㋸24節ｂ　婦人たちが言ったとおり、見当たらなかった㋾24節ｃ　彼らは（婦人たちが言ったとおり、見当たらなかったことを）見た |

以上のように今日の福音は交錯配列法で書かれています。〔語句の意味〕交錯（こうさく）┅┅入り交じること。交錯配列法は、例えば文章の構造がＡＢＣＤⒸⒷⒶというように、中心句または中心テーマＤを中心にして左右または上下の各部がそれぞれ対応するように配列されたものです。今日の福音の交錯配列法の中心はワ「イエスは生きておられる」（23節ｃ）であり、内容的にもこれが中心になっています。今日の福音は、「生きておられるイエス（復活のイエス）と出会う場所はどこですか」というテーマをもって書かれています。

**目が遮（さえぎ）られていた（13－21節）**

「イエスは生きておられる」と聞いて墓を訪ねても、イエスには会えませんでした。落胆しエルサレムからエマオへと旅に出た二人の弟子（13節）の後をイエスは追い（15節）、どこで自分に会えるのかを教えます。エマオへの旅の道中、二人の弟子は、イエスの受難と死、そして「空の墓」の出来事が理解できず、互いに語り合っていたのかも知れません（14節）。そこにイエスが近づいて共に歩くことで二人はそれらの出来事の意味を知り始めます。このとき「二人の目は（イエスを認めないように）遮られていました」（16節）。

**イエスは生きておられる（22－24節）**

婦人たちは墓に行くと（22節）、イエスの体が見当たりませんでしたが（23節ａ）、天使に出会い（23節ｂ）、「イエスは生きておられる」（23節ｃ）と告げられ戻ってきます（23節ａ）。それを聞いた弟子たちが墓へ行くと（24節ａ）、墓の状況が婦人たちの言ったとおりであるのを「見ました」（24節ｃ）が、イエスの体が見当たらないと述べています（24節ｂ）。「生きているイエス」と出会う場所は墓ではなかったのです。

**パンを裂く（25－35節）**

イエスを認めないように目が遮られた（16節）二人の弟子は一口で言って失望の中にあります。「望みをかけていた」（21節ａ）と過去形でしか語りません。「イエスは生きておられる」という告知も、「告げた、と言うのです」としか受け止めていません（23節ｃ）。旅人イエスは、このような人を「愚かな（直訳）」「不信で心が鈍い」（25節）と嘆きます。

目が遮られた二人の弟子が「イエスは生きておられる」という婦人たちの言葉を信じなかったのに、信じるに至るのは、旅人イエスが彼の受難と死とを自ら説明して（27節）、パンを裂く式においてです。彼らはパンを裂くときに目が開けてイエスであると分かった（30－31節ａ）、というのですから、彼らがエルサレムへと戻り、他の弟子たちに「道で起こったことや、パンを裂いてくださったときにイエスだと分かった次第を話した」（35節）という、今日の福音の最後の文も、イエスとの出会いの場は「墓」ではなく、イエスが語る聖書に耳を傾け、イエスが裂くパンを食べるときだ、と教えています。

　**今日の福音のまとめ**

遮られた二人の弟子の目は、旅人イエスが共に歩いて聖書を説明し、パンを裂くときに「開かれた」と述べています。これは「神によって開かれた」（神的受動態）の意味かも知れません。そうであれば、人間が生きておられるイエス（復活のイエス）を認めることができるのは、神によって目が「開かれた」ときだけです。

今日の福音は、エマオへの旅の道中にある二人の弟子に、イエスは旅人として「一緒に歩いた」（15節）という復活出現の物語です。私たちも信仰の旅の道中にいます。イエスは私たちと共に歩いています。聖書に耳を傾け、裂かれたパンにイエスの十字架を思うとき、私たちは共に歩む復活のイエスに出会うことができるのです。

2020年4月26日（日）　金沢教会　主日ミサ　説教